

# 財団法人水島地域環境再生財団

## 2010年度（平成22年度）事業報告書

2010年4月1日～2011年3月31日

財団法人水島地域環境再生財団の2010年度（平成22年度）事業計画では、持続可能な組織運営をめざす、これまでの成果を社会へ還元する、使命と役割を再考する、公益法人移行について十分に検討するという、以上4点を基本として組み立て、事業を行った。

今年度は、持続可能な組織運営のための事業立ち上げにあたり、視察受け入れ体制の拡充を行い「みずしまプロジェクト」を立ち上げ、次年度に発展させることとした。

これまで長年取り組んできた海の環境再生の調査研究ならびに八間川調査は、継続と普及活動が評価され、「日本水大賞審査部会特別賞」、「第一回生きものふれあい大賞」を受賞し、成果を広く社会へ還元することができた。

使命と役割については、環境再生ならびに公害経験を伝えていく事業の実施主体であるとともに、他団体等が環境・まちづくりを行う際の支援を担うことを社会から期待されていることが分かった。

公益法人移行については、ワーキンググループを立ち上げて集中的に議論し、理事懇談会の中で情報を共有化しながら、申請書類の作成を継続している。

## 1 地域再生

公害地域の再生にむけ、「地域の研究機関」として研究をおこなうとともに、共に協働して事業がおこなえる地域の人材養成・ネットワーク形成のための「支援組織」としての役割をも担う。(中長期計画目標)

### 1. 地域の研究機関としての役割

水島地域を中心として、岡山県内を拠点とする地域の研究機関としての役割を担う。「水島のまちづくり」「公害・地球環境」「高梁川・瀬戸内海の環境再生」「コンビナート研究」を大きなテーマとして、新たな課題の発掘やその解決にむけた調査研究、提言、解決にむけた体制作りなどをおこなう。(中長期計画目標)

### 海と川を中心とした環境再生の研究・協働のコーディネート

調査研究および提言活動を4つのテーマでおこなった。成果として、海や川、温室効果ガスの発生状況等の研究から、岡山県内の環境の実態把握を多面的に行うことができた。さらに、市民への普及啓発の方法論が得られた。また公害地域の視察・研修においては、環境分野のみならず、医療福祉分野にニーズがあることを明らかにすることができた。

成果の活用については、岡山県環境審議会(廃棄物部会)、河川整備検討委員会の委員等を通じての提言に活かし、同時に、公害地域の経験や、未来を創り出していく再生活動が人材育成や研修となることを普及させることとしたい。

「岡山県温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度に対する提言書」に関しては、市民向けの勉強会の開催、シンポジウムの開催など、さらなる普及啓発に努めたい。

### \* 八間川調査

1999年から年4回(季節ごと)継続実施してきた八間川調査は、得られた調査データを経年変化としてまとめ、教材「八間川ってどんな川？」に反映させた。そのため、今年度は環境学習へと重点をシフトし、6月と夏休みである8月に絞って開催した(6/20(18人参加)、8/29(12人参加))。

なお、前年度に作成した教材「八間川ってどんな川？」は、新聞報道などの効果もあり一般市民からの問い合わせがあるなど、広く普及することができた。

また、10年継続した参加型調査と、小学生にもわかる教材が評価され、「第一回いきものぎわいコンテスト市民活動部門富士フィルム・グリーンファンド活動奨励賞」を受賞した。

#### \* 高梁川流域および瀬戸内海の再生

(1) 「高梁川流域における海ごみ対策基礎調査」(委託：岡山県備中県民局)

「高梁川流域における海ごみ対策基礎調査」を岡山県備中県民局から受託し、高梁川流域圏での河川ごみ実態把握調査を行った。ごみ発生総量と性状の調査、たまりやすい場所の確認等を実施し、流域における効果的なごみ回収地点・方法の提案を5つの提言としてまとめた。

#### \* 地球温暖化問題に関する調査研究

(1) 「岡山県温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」に基づく「温室効果ガス排出削減計画書」の評価・提言書作成事業(委託：岡山県共産党県議団)

岡山県内の各事業所(一定規模以上)が岡山県に提出する「温室効果ガス排出量削減計画書」に関して、より現実的に実効性のあるものとなるよう、評価を行った。専門家による検討会を立ち上げ、指導や削減義務量などは想定されていない等の課題を明確にし、その改善に向けた政策提言として、「岡山県温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度に対する提言書」をとりまとめた。

#### \* 公害地域における視察・研修事業に関する調査研究

(1) 平成22年度持続可能な社会づくりを担う事業型環境NPO・社会的企業中間支援スキーム事業のモデル実証事業(委託：環境省)

環境省の「平成22年度持続可能な社会づくりを担う事業型環境NPO・社会的企業中間支援スキーム事業のモデル実証事業」を活用し、国内外へ、水島地域の経験や取り組みを伝え、活用してもらうための視察研修受け入れ体制の拡充を目指し実施した。

EPOちゅうごくの支援を受けて、事業計画書「海外からの受入力アップ計画」をまとめた。その過程で「環境と観光をつなぐ研究会」を立ち上げ、関係分野の専門家からの意見をもとに2/4モデルツアー「技術と暮らしと、私と未来」を実施。意見を反映した専用サイトの作成をおこなった。

また、実際に中国を訪問しての宣伝を、2/23-27に中国・北京で開催された「第3回日中NGOシンポジウム」においておこなった。

#### \* 各種提言活動

よりよい環境行政、まちづくりが行われるよう、各種委員会等での意見・提言をおこなうとともに、パブリックコメント等を活用し国や県、倉敷市等へ提言をおこなった。

[提言書]

- ・ 水島サロンへの提言書(倉敷市)
- ・ 「倉敷市第二次環境基本計画(原案)」に対する意見(倉敷市)
- ・ 「工場立地法第4条の2第1項の規定に基づく準則を定める条例案」に対する意見(岡山県)
- ・ 「倉敷市第六次総合計画 基本構想(素案)」に対する意見書(倉敷市)

[ みずしま財団スタッフが委員となっている委員会など ]

- ・ 生物多様性の保全に関する情報共有のための中国地方円卓会議（環境省中国四国地方環境事務所）
- ・ 倉敷市環境審議会（公募委員）
- ・ 倉敷市環境基本計画策定市民委員会
- ・ 岡山県環境審議会 廃棄物部会
- ・ 岡山県河川整備検討委員会
- ・ 中国四国バイオマス活用促進協議会
- ・ 岡山環境学習協働推進広場運営委員会

## 2. 人と人、組織と組織をつなぐ支援組織

共に協働して事業がおこなえる地域の人材養成をおこなうとともに、地域にある組織(企業や行政も含む)・個人の強みをそれぞれ活かし、それをかみ合わせ、つないでいく役割を担う。(中長期計画目標)

### 講座の開催や各種イベント、会議等の開催を通じ、人のネットワークを構築していく

講座の開催やイベント等を通じて、地域の人材養成、支援活動を行った。講座単発の満足度、評価は高かったが、その成果をどのように次の展開に発展させるかについては課題が残った。また、継続的に人材育成、支援している分野について、これまでの実績から、支援できる内容・種類は充実したが、財源確保が課題である。

#### \* 講座の開催

##### (1) 平成 22 年度環境 NGO・NPO 地域ワークショップ 中国ブロック(委託:(独法)環境再生保全機構 地球環境基金)

中国地方の環境保全団体において横断的な課題である「ボランティアコーディネーター」をテーマに、関係性づくりを考えるワークショップを実施した。環境保全団体・スタッフ、大学関係者、大学生など、中国地方から 31 名が参加し、学生と NGO/NPO がつながるための 11ヶ条を作成した。参加者への学びの提供と共に、みずしま財団としての今後学生との関わりや、中間支援について、有効な知見を得ることができた。

開催日時：平成 22 (2010) 年 11 月 23 日(火・祝) 10:00 ~ 17:00

会場：岡山国際交流センター7 階多目的ホール

講師：赤澤清孝(ユースビジョン代表)

ファシリテーター：高田 研(都留文科大学教授)

##### (2) 倉敷環境市民会議(エコらぼ倉敷)

環境月間における倉敷市との懇談会の運営を担う場として「倉敷環境市民会議(エコらぼ倉敷)」の事務局を担った。月 1 回の例会(定期参加者 8 名)を通じて市民の学びを支援し、さらに倉敷市内の環境の現状を見に行く実践活動として、「エコ遠足」(菅生学区 6/2、玉島 9/29)を立ち上げ実施した。

8 回目を迎えた「倉敷市との環境月間との懇談会」は、環境学習をテーマに開催した(6/30。参加者：市民 10 名、倉敷市 9 名)。

#### \* 水島地域のまちづくり団体の相談対応・支援活動

地域の人材養成、支援活動の一環として、水島地域を対象として活動を行った。

地域内の各種まちづくり団体に参加し、会議等に出席。また、水島港まつり(7/31-8/1)等地域の催し物への参加や、水島夢 koi・koi!(踊りのイベント)・雛めぐり(2~3月)の開催に関しての事務作業などを請け負った。

## \* その他連携・支援活動

全国のまちづくり団体や患者会また、岡山県内の環境団体等と連携するとともに、会の運営や事務請負などもおこなった。

### [ 特記事項 ]

- ・ 第 10 回全国自治研究集会岡山大会 ( 10/16-17 ) 実行委員会への参加ならびに分科会の企画・運営
- ・ 河野通博先生を偲ぶ会 ( 9/26 ) 開催に向けた事務作業請負
- ・ EPO ちゅうごくと連携した、生物多様性条約締約国会議開催にあわせた「交流フェア」への展示・参加 ( 10/20-22 )
- ・ 「公害地域の今を伝えるスタディツアー」(主催:(財)公害地域再生センター)の事業実施に関して編集コーディネーターとして参加

### [ その他、会の運営等への協力 ]

- ・ 「おかやま環境ネットワーク 自然環境部会」: 毎月例会の開催、会報「自然環境おかやま」編集、「環境シンポジウム」( 2/26 ) 実施協力
- ・ 倉敷市地方自治研究集会 ( 2/19-20 ): 実行委員として環境分科会開催協力。
- ・ 倉敷まちづくりネットワーク: 世話人として参加。会の運営に携わる
- ・ 倉敷パートナーシップ推進ひろば: 正会員として参加。会の運営に携わる
- ・ GREENDAY: 実行委員として参加。イベント当日 ( 4/24 ) にパネル展示等行う
- ・ 寄島里海創生協議会: 事務局を担当
- ・ 倉敷・総社温暖化対策協議会: 交通システムグループ担当として、自転車を利用したイベント等の企画運営に携わる
- ・ STOP 温暖化くらしき実行委員会: 実行委員として毎月会議参加、イベント開催協力

### [ 各イベントでの展示協力 ]

- ・ 「くらしき環境フェスティバル」( 6/6 主催: 倉敷市 ) パネル展示
- ・ 「びっちゅう 環境と地産地消フェア」( 6/13 主催: びっちゅう 環境と地産地消フェア実行委員会 ) パネル展示・タッチプール出展
- ・ 「低炭素社会に向けたまちづくりフォーラム」( 7/17 主催:(財)岡山県環境保全事業団ほか ) パネル展示
- ・ 「環境フェア in たかはし」( 10/2 主催: 高梁市ほか ) パネル・海ごみ展示
- ・ 「リサイクルフェア」( 10/10 主催: 倉敷市 ) パネル、海ごみ展示
- ・ 「エコ&フードフェア」( 11/6-7 主催: 岡山県ほか ) フードマイレージ・海ごみ展示
- ・ 「倉敷市農業まつり」( 11/28 主催: 倉敷市ほか ) フードマイレージ展示

## 2 公害経験の継承と被害者支援

水島地域でおきた大気汚染公害の経験を伝えていき、同じ過ちを犯さないよう国内外に情報発信をおこなっていく。

また、高齢化している公害患者の QOL 向上にむけ、調査研究および実践をおこなっていく。

(中長期計画目標)

### 「のこす・伝える」活動の強化

歴史や地域特性を語ることのできる人材を育成することを、実際の研修事業を通じて行い、一定の成果が得られた。「のこす・伝える」分野は、様々な配慮が必要でかつ地道な取り組みである。今後も研究者と連携しながら、継続実施する。

#### ・生活史の聞き取り

大原社会問題研究所 江頭説子氏、小磯明氏と連携し、公害患者の生活史をのこす活動として聞き取り調査を実施。平成 22 年度には 17 名の聞き取りをおこなった。今後はどのような形式で残すかについて検討をする。

#### ・倉敷医療生協の新人研修

今年度も引き続き倉敷医療生協から新入職員に対する研修を受託・実施した。研修は「水島を知る」ことを目的に内容を構成した。また、企画運営を水島まちづくりワーキンググループとともに行うことで、「水島の歴史、地域特性を語れる人」を育成することを同時に行った。

2010 年 4 月 3 日(土)「水島探検の旅」：新人研修 41 名

#### ・国内外への情報発信

「平成 22 年度持続可能な社会づくりを担う事業型環境 NPO・社会的企業中間支援スキーム事業のモデル実証事業」と連携して、国内外への情報発信について検討した。その結果を 3 カ国語のインターネットサイト作成に反映させた。

また、「第 3 回日中 NGO シンポジウム」(2/23-27 主催：JICA)に参加し、分科会で水島の経験とまちづくりについて情報発信した。

### 公害患者の支援と健康な地域づくり

公害患者が「少しでも楽に暮らせるように」と考えられてきた内容が、他の呼吸器疾患の患者や家族に役立ち、また COPD という病気の早期発見にも有効であることがわかった。

このことから、公害患者の「病とのつきあい方」という個人的な経験が、健康な地域づくりに重要な役割を持つことが分かった。

また、「ぜん息・COPD の情報発信・普及啓発活動」を通じて、健康な地域づくりのために、多様な組織が主体的に関われる連携体制を倉敷市に作ることができ、成果となった。

#### ・ 和解成立日記念講演会 & コンサートの実施

「公害患者が咳などを気にせず音楽を楽しめる場を」をコンセプトに行っている講演会 & コンサートを例年通り実施。倉敷公害訴訟弁護団事務局長の石田弁護士の講演と倉敷管弦楽団のコンサートを行った。

#### 「和解成立日記念イベント 講演会 & コンサート」

12月23日（祝） 水島協同病院講堂 参加者：40人

講演会「水島の経験を今後どういかにするか」 講師：石田正也 氏

コンサート：倉敷管弦楽団四重奏

#### ・ ぜん息・COPD 発症予防等情報発信事業（（独法）環境再生保全機構 請負事業）

前年度以前から行っていた高齢公害認定患者の包括的呼吸リハビリテーションの普及に関連して、地域での病診連携体制の構築を念頭においた、COPD 患者のスクリーニングを保健所等との連携によっておこなった。また、こうした取り組みを活かし、年度後半では、公健法の予防事業を請負実施した（環境再生保全機構）。

具体的な事業は以下のとおり。

地域のイベントを活用した肺年齢測定（14箇所）

肺機能測定に関する研修会の開催（7/14、3/18）

患者向け講演会（3/9）

メディアでの情報発信（2～3月の毎週金曜日の10分間）

検討会（9/15、2011年1/5、3/28）

### 3 公害環境学習

地域の現状に即した内容での講座開催をおこなうとともに、地域の資源を活用した公害・環境学習をおこなっていく。これらは、収益事業として行うと同時に、調査研究を地域へ還元するということも念頭におき実施する。

(中長期計画目標)

#### 既存プログラムの活用と海辺の環境学習の充実

今年度は、アマモ場や漁村体験をテーマにした海域を活用した環境学習プログラムと、フードマイレージゲームの岡山版を作成・普及活動に重点をおき、実施した。どちらも第一次産業（漁業・農業）と生活者とのつながりを環境（生きもの・廃棄物・交通等）という側面からわかりやすく伝える内容で、受講生に好評だった。また今年度は、実施にあたって JA など農業関係者と新たな関係性ができ、成果のひとつとなった。

子ども向けの体験学習が重要視される昨今の事情等から、講座数も参加者数も多かった。視察受け入れ、講師派遣は徐々に増えてきているが、今後さらに積極的なピーアールを行い、実施数を安定的に増やしていきたい。

#### \* 講演題目のメニュー化、既存プログラムの普及活動

・みずしま財団たより 56 号において、講師派遣のメニューを整理し紹介。その該当号のたよりを、講座の案内チラシとともに、中国地方の大学および岡山県内の社会教育施設・公民館に郵送し普及につとめた。

また、フードマイレージ買い物ゲームの教材については「夢&環境基金」の助成をうけ、小学生向けの教材を作成し、岡山市藤田地区の小学校の ESD への取り組みや、倉敷市立玉島北中学校での取り組みなどに活用してもらった。

#### \* 専門性を活かした研究員の講師派遣

「海関係」「フードマイレージ」「環境」「まちづくり」キャリア教育などの「その他」を主な分野として講師派遣をおこなった。

学校や NPO、公民館など年間 24 件、のべ 22 日の派遣をおこなった。

(海関係)

- ・「海ごみ対策検討会報告会」(6/21 主催：環境省中国四国地方環境事務所) 報告者として
- ・環境セミナー「瀬戸内海・海ごみについて考える」(6/27 主催：備前県民局・NPO 法人グリーンパートナーおかやま) コーディネーターとして。
- ・「自由研究もバッチリ！家族で体験くらしきの海」(7/31、8/21、8/28 主催：倉敷市市民学習センター) 講師として。
- ・「夏休み海底ごみ学習会」(8/3 主催：瀬戸内オリーブ基金) 講師として。

- ・「瀬戸内海を知ろう！学ぼう！味わおう！」(3/4 主催：生活協同組合おかやまコープ備北エリア)」講師として。

(フードマイレージ)

- ・岡山市藤田地区小学校(藤田地区ESDの一環)(9/6 第一藤田小(五年1クラス)、第二藤田小(五年2クラス)、第三藤田小(五年1クラス))
- ・JA倉敷・かさや 親子料理教室(7/28)
- ・おかやまコープ労働組合勉強会(9/29)
- ・おかやまコープ井笠エリア「エコカフェ」(11/30)
- ・「自分のためのプチ・プラスなエッセンス！経済センスアップ講座」(3/2 主催：倉敷市市民学習センター)
- ・岡山市富山公民館講座(3/19)

(環境)

- ・倉敷市立水島小学校での講演(9/7 水島小学校4年生対象)講師として
- ・「環境のつどい」(9/30 主催：倉敷医療生活協同組合)講師として。
- ・「外部講師による環境学習」(3/2 主催：県立矢掛高等学校)講師として

(まちづくり)

- ・「倉敷医療生協 2010 年度まちなみチェック活動交流集会」(7/17 主催：倉敷医療生活協同組合)コメンテーターとして

(その他)

- ・キャリア教育環境部門(10/5 県立倉敷南高等学校)講師として
- ・「ファンドレイジング日本 2010 参加報告会」(5/30 主催：倉敷パートナーシップ推進ひろば/みずしま財団)報告者として
- ・研修事業実務者会議(1/19 主催：独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金)事業委託実務者として
- ・公害防止取組促進検討会 住民参加分科会(3/4 社団法人産業と環境の会)

**\*海辺の環境学習の推進と体制の充実**

(1)海辺の環境学習の推進と体制の充実

みずしま財団の環境学習を特徴づける「海辺の環境学習」をより推進するために、メニューの充実や体制の整備などを検討した。

検討したことを反映し、親子向けの学習の場として「海辺の自然学校 in 宇野」(8/17)(委託事業：「平成 22 年度岡山県内沿岸域における海辺の自然学校運営業務」(国土交通省宇野港湾事務所))、「海底ごみ学習会」(11/14)(「海底ごみ目に見える化計画 in 中讃」(海守さぬき会))の実施、また環境学習教材作成の監修や海底ゴミ実態把握調査事業への協力などもおこなった。

(2)海岸漂着物対策普及啓発事業(委託：岡山県グリーンニューディール事業)

海岸漂着ごみについての普及啓発活動を岡山県水産課から受託し、実施した。

漂着ごみ単体でなく、植物や生きものと組み合わせた観察会や漁業体験などを設定し、海の実態を総合的にわかるよう工夫した(のべ 135 名参加)。実施にあたっては寄島里海創生協議会の構成団体と連携した。

また観察会や漁業体験に参加した親子の感想を活用し、パンフレットやホームページ専用サイトを作成した。これらのことを通じ、普及啓発の方法論を工夫した。

海岸性植物/生きもの&漂着ごみ観察会(10/17、11/28、2/11)

船に乗ってみんなで知ろう、瀬戸内海の漁業&海と私たちの暮らし(11/27、3/12)

イベント展示(10/2、11/6、7)

「岡山の海を知っていますか？」パンフレットの作成(3000部)

HP専用サイトの作成

### \*エコツアーの企画実施

国内外から、研修・視察の受け入れをおこなった。「平成 22 年度持続可能な社会づくりを担う事業型環境 NPO・社会的企業中間支援スキーム事業のモデル実証事業」の関連もあり国外への情報発信事業に力をいれ、7 団体 265 名の受け入れをおこなった。。しかしながら、中国との国交問題など、視察のキャンセルなどもあった。

#### [ 国外 ]

- ・ 中国清華大学(7/21) 20名

#### [ 大学 ]

- ・ 島根大学法経学科経済分野(8/31) 28名
- ・ 吉備国際大学 国際環境経営学部 学外研修(11/17) 43名
- ・ 岡山大学環境理工学部 金研究室(12/3) 5名

#### [ 企業など ]

- ・ 倉敷医療生活協同組合 新入職員研修(4/3) 41名
- ・ 中国四国地方民主医療機関連合会事務局員(12/6) 20名

#### [ その他委託事業等 ]

- ・ 水島コンビナート環境体験ツアー(主催:岡山県備中県民局)(10/6、10/26)計 87名
- ・ 平成 22 年度瀬戸内海環境保全トレーニングプログラム研修(主催:(社)瀬戸内海環境保全協会)(10/14) 21名

#### 4 情報発信と収集

地域の情報コーナーとしての役割を担うためにも、常日頃から情報の収集と発信につとめていく。(中長期計画目標)

#### 共感の得られる情報発信と図書資料の整理活用

内部向けに限定し、週に1度のメールマガジンを発行したことで、情報共有と伝達ができた。昨年度仮オープンした資料室は、図書・資料の整理充実をはかり、データ化している。企画展示や資料室への新着図書等の情報について、たよりと連動することで、普及効果を高めることができた。

#### \*「情報発信・広報強化事業」

他事業と関連してホームページでの情報発信を整備し、充実させた。また、年6回の「みずしま財団たより」の発行に関しても、コンセプトの洗い直しをおこないリニューアルをおこなった。またFMくらしきをはじめとしたメディアでの情報発信も積極的におこない、財団スタッフだけでなく協力関係者等にも出演をしてもらうなど、幅広い取り組みをおこなった。

その他、随時、倉敷市記者クラブへの情報提供等を行い、新聞等マスコミを通じての情報発信、また各イベント等に出展し、情報発信をおこなった。

#### ホームページ

ホームページは、「平成22年度持続可能な社会づくりを担う事業型環境NPO・社会的企業中間支援スキーム事業のモデル実証事業」の一環としてツアー情報を提供するサイトの作成および、「海岸漂着物対策普及啓発事業」の一環として海ごみ情報を提供するサイトを作成した。

また、随時、イベント開催の情報等を掲載した。

#### みずしま財団たよりの発行

「みずしま財団たより」54~59号を発行した。55号からは、「みずしま財団の活動をしっかり伝える」というコンセプトと、「公害患者さんに読みやすい」という読者層を設定し、リニューアルをおこなった。新しいたよりは、「事業紹介」「ふりかえりトピックス」「資料室通信」「話題@mizushima」といった構成になっている。

各たよりの主な内容は以下のとおり。

54号(2010年5月)

- ・ 特集「みずしま財団10周年企画「みずしま財団たより」から10年をふりかえる 後編」

55号(2010年7月)

- ・ 事業紹介「海底ゴミ調査事業」

56号(2010年9月)

- ・ 事業紹介「講師派遣～あなたのところへお話しに！～」
- ・ 資料室通信「ミニ展示 随時開催」

57号(2010年11月)

- ・ 事業紹介「視察・研修受け入れ～水島で学ぶ～」
- ・ 資料室通信「COP10へいってきました」

58号(2011年1月)

- ・ 事業紹介「出版事業～報告者や冊子をつくっています～」
- ・ 資料室通信「『シオ太のアマモ大作戦』取り扱っています」

59号(2011年3月)

- ・ 事業紹介「環境保健～公害患者のQOL・ADLの向上～」
- ・ 資料室通信「故坂本忠次先生の著書紹介をしています」

## メディア

- ・ FMくらしき「みみみみずしま財団エコらぼ Friday」(毎週金曜日 15:45～15:55ごろ)

月別テーマを設け、地域や環境に関する情報を提供するとともに、みずしま財団のイベント紹介などをおこなった。番組提供をしているため、番組終了時にクレジットがはいっている。

### [毎月テーマ]

- 4月 「春です。つながりましょう」
- 5月 「公益法人ってなあに？あわせてNPO法人も」
- 6月 「環境月間と生物多様性」
- 7月 「エコツアー 特に海外向け」
- 8月 「学習の夏」
- 9月 「倉敷市の計画策定見てみよう！ 6次総と環境基本計画」
- 10月 「生物多様性」
- 11月 「秋の夜長に読書です。おすすめ、環境本のご紹介！」
- 12月 「12月です」
- 1月 「寒い冬をあったかく過ごす工夫」&「水島ツアーをするよ～」
- 2月 「ぜん息とCOPD その1」
- 3月 「ぜん息とCOPD その2」

### ・その他メディア

- 倉敷ケーブルテレビ「発掘エコライフ」(5月)
- 山陽放送ラジオ フードマイレージについて(8/31)

**\* 公害環境問題・水島・まちづくり 情報の収集・充実事業**

各事業において情報の収集を行うとともに、昨年度に整理した「みずしま財団資料室(仮)」において、図書整理など資料の利用がしやすいよう取り組んだ。

また、不定期ではあるが、随時ミニ展示をおこなった。展示のテーマは以下の通り。

- ・ 「南アフリカを知ろう！」写真展示(6/18~7/12)
- ・ 「生物多様性ってなに？」ミニ展示(10/8~29)
- ・ 「坂本忠次元理事の著書紹介」(2~3月)

## 組織運営について

### 5 外部とのかかわり

円滑な事業実施をおこなうために、また効果的な組織運営をおこなうために、みずしま財団以外の組織とも十分な関わりをもっていく必要がある。そのためには、企業、行政、大学・専門家、地域の教育機関、インターン・ボランティア、賛助会員、その他団体との連携を強化する。(中長期計画目標)

「みずしまプロジェクト」立ち上げにおいて、企業、行政等の外部組織との連携のきっかけとなった。しかし、一部に限られているため、さらに積極的な関わりが求められる。また、他のNPO支援組織等との役割分担や連携体制については課題である。

#### [ ボランティア・インターン ]

定期的にボランティア1名にかかわってもらっている。インターンについては、今後定期的な受入を検討しているため、講座等を活用し課題を整理した。

#### [ 賛助会員 ]

賛助会員は以下の通り。

個人会員	116名(452口)
団体会員	18団体(26口)
法人会員	10法人(24口)

## 6 組織基盤

事業実施・組織運営において、効果的に行うための内的要因としては、資金、組織・人材、施設・設備、経営・運営力の4つがあげられる。それぞれについて、自立した運営をするために工夫をおこなう。(中長期計画目標)

資金面、組織人材面、施設設備面、経営運営力面について、理事が議論・実行するために理事懇談会を月に一度開催した。公益法人改革に合わせながら、それぞれの課題について取り組みをすすめたが、今後更に拡充する必要がある。

理事会、評議員会といった機関会議を開催するとともに、理事懇談会を定期的に(月に1度)開催することによって、組織基盤や、事業の検討、公益法人改革等について情報を共有化し、議論を行った。公益法人改革については、評議員も交えたワーキンググループを立ち上げ、申請に関わる書類等の細部を検討した。

また、常勤スタッフの日常業務の円滑な推進のための、事務局打ち合わせを、原則、毎週木曜日(10:00~12:00)に行うとともに、理事等に現状を伝えるための内部用メールマガジン作成を5月からはじめ、毎週発行した。

### \* 機関会議

理事会：4回開催した。

6月26日(土)第33回理事会(通常会)...平成21年度事業報告、決算報告

7月19日(土)第34回理事会(臨時会)...理事長及び専務理事の互選

11月13日(土)第35回理事会(臨時会)...平成22年度事業・決算見通し等

3月21日(土)第36回理事会(通常会)...平成22年度補正予算、平成23年度事業計画及び予算

\* 評議員会：3回開催した。

6月20日(土)第27回評議員会(通常会)...平成21年度事業報告、決算報告

11月6日(土)第28回評議員会(臨時会)...平成22年度事業・決算見通し等

3月12日(土)第29回評議員会(通常会)...平成22年度補正予算、平成23年度事業計画及び予算

### \* その他会議

・ 事業検討委員会 5/10

・ 合同委員会：6/12

・ 理事懇談会：9/20、10/11、12/26、1/30、2/19

・ 公益法人改革ワーキンググループ：8/27、9/3、10/28、2/19

- ・ 評議員選定委員会：5/11
- ・ 監査 5/27